# ルール改正によるバドミントン、プレースタイルの変化

## Changes of playing style of badminton by revising rules

1K10C127-0 嘉村　昌俊
主査 関一誠 先生　　副査 渡辺英次 先生

【目的】

ラリーポイント制の導入により試合時間の短縮、力の差のある選手でも競る展開になるなどといった予測とは別に、選手にはミスをすることによってすぐ相手ポイントになってしまうためショットの正確性､集中力の持続、メンタル面の強さがより求められるようになった。実際に試合をし、観戦していても、やはり攻めきることのできる選手の方が確実にポイントに繋がっているように感じる。このようにルール改正による影響は大きい。したがってルール改正によるプレースタイルの変化とラリーポイント制における必勝法を明確にすることを目的とした。

【方法】

被験者は世界ランキングにおける上位選手を対象とした。また今回は林丹選手をピックアップし調査を行った。林丹選手の試合を収録してある DVD を収集し、分析を行う。毎ラリーの攻撃的なショット、受身的なショットをカウントし、ミスをしたショット、エースを取ったショットを記入する。そこでスコア用紙を用い、毎ラリーの両選手の攻撃的なショット(スマッシュ､カット、プッシュ、ラケットを立ててのヘアピン、ドライブ）を○、受け身的なショット（攻撃的なショットに対するレシーブ、ロブ、ヘアピン）を●とし、それぞれカウントした｡状況的に追い込まれカットしか打てない場合でも、基本的に相手を下で打たせるショットは攻撃と判断し、エンドに追い込まれた場合のハイバック、下から打つフォア奥からネットリターンショットは受身と判断する。下から打つフォア奥からのエンドリターンショットはクリアーと判断する。ドリブンクリアーが攻撃である場合もあるが高さの規定もなくハイクリアーとの見分けがつかない場合もあるので、クリアーはどちらにもカウントされないものとする。ミスしたショットも数には入らない｡(スマッシュ…｢ス｣､カット…｢カ｣､ヘアピン…｢ヘ｣、ロブ…「ロ」、レシーブ…「レ」、クリアー…「ク」、ドライブ…「ド」)｡それぞれ打数の合計を示し、２００５年、２００８年、２０１２年の結果の比較を行う。さらに、早稲田大学バドミントン部でアンケート調査を行った。

【結果・考察】

旧ルールと現在のラリーポイント制とではラリー展開が激しくより攻撃的な速い展開へと変化した。その理由として、ラリーポイント制の導入により、ラリーの組み立てが緻密になり戦術・戦略が変化したことが挙げられる。また、２００５年から２０１２年にかけ攻撃的なショットは増加し､受身的なショットは減少した｡ミス（自爆点）の結果を比較しても２００５年から２０１２年にかけ大きく減少していることが分かった。旧ルールにおいてはサービス権をもっていればミスをしても相手選手にポイントは入らないため一か八かの無理のあるショットも目立った。しかし、ラリーポイント制の導入によりミスが許されなくなった為、より一層サーブから一本一本集中し、またポイントを獲得し試合を優位に進めていく為にも積極的に攻撃するようになった。これらが林丹選手のプレースタイルが変化した理由として挙げられる。また実際に早稲田大学バドミントン部の選手２０名にアンケート調査を行った。その結果ラリーポイント制の導入によりプレースタイルが変化した選手が１７名と大部分であった。また攻撃をしないと試合を優位に進められない=積極的に攻撃するようになった、一本一本ミスをしないよう大事にプレーするようになったなど選手に大きく影響を与えていることが分かった。

【結論】

本研究で､ルール改正後プレースタイルに変化がみられたが､結局はいかにミスをせず攻撃し、チャンスで決めきることができるかが重要であるという結論に行き着く。仮に相手に攻め込まれた場合、それだけこちらにミスの確率が上がってしまう｡｢攻撃は最大の防御｣という言葉があるが、現在のラリーポイント制では正にこの言葉が当てはまる。また、いかにネット前を相手プレーヤーより先に取り、主導権を握り攻撃できるかが勝敗の鍵であり、ネット前の主導権を握る戦術・戦略を成立させるためにショットの正確性など技術力も必要不可欠である。